

委託事業実施内容報告書

平成21年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【ボランティアを対象とした実践的研修】

受託団体名 学校法人吉岡教育学園 千駄ヶ谷日本語学校 豊島日本語学院

1 事業の趣旨・目的

東村山市には多くの外国人が在住しており、既存の日本語教室では十分に対応しきれておらず、新たなボランティアが早急に必要とされている。そのため、現在のボランティアが新たなボランティアを育成する体制作りが求められる。この体制を実現するには、日本語教室を運営する支援団体に自己育成能力がなくてはならない。

そこで、今まで当千駄ヶ谷日本語教育研究所グループが築いてきた実績やノウハウと、一昨年度の文化庁委嘱事業「対話を中心とした交流活動のカリキュラム」作成、及び昨年度の「日本語ボランティアグレードアップ講座」を通じて得られた地域の日本語教室のニーズに関する情報を活かし、日本語支援を自律的に考え、実行できる人材の育成を目指す。

2 企画委員会の開催について

【概要】

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
6/1 18:30～20:00 (総会)	千駄ヶ谷日本語教育研究所 センター校	石井恵理子 伊東 祐郎 乾 美保子 内田美和子 梶村 勝利 川村 弘史 久保田怜男 小山 紀子 新山 忠和 吉岡 正毅 吉川 正則	・企画委員紹介 ・事業概要説明 ・長期研修案の説明 ・今後のスケジュール ・その他	・事業計画書に沿った事業概要の説明 ・研修目標と内容について ・研修の個別内容とスケジュールについて ・今後の運営委員会開催等のスケジュールについて
6/29	千駄ヶ谷日本	乾 美保子	・研修スケジュール	・研修スケジュールの再検討

17:30～19:30	語教育研究所 センター校	小山 紀子 新山 忠和 吉岡 正毅 吉川 正則	・各回の内容	・参加者の募集状況と各回の内 容の再検討
7/6 13:30～15:30 (総会)	千駄ヶ谷日本 語教育研究所 センター校	石井恵理子 伊東 祐郎 乾 美保子 内田美和子 梶村 勝利 川村 弘史 久保田怜男 小山 紀子 新山 忠和 吉岡 正毅 吉川 正則	・研修スケジュール ・初回の配布物等 ・今後のスケジュー ル ・その他	・参加者の募集状況報告 ・個別の科目とその内容につい て。 ・研修スケジュール ・開講準備と初日の受講生対応 ・東村山市職員の見学について ・実習外国人の募集について ・企画委員会のスケジュール ・受講証明書の扱いと体裁につ いて
9/2 17:30～19:30	千駄ヶ谷日本 語教育研究所 センター校	乾 美保子 小山 紀子 新山 忠和 吉岡 正毅 吉川 正則	・第5回までの実施 状況検討 ・実習内容の検討	・受講者属性の検討と当初5回 の反応について ・講座内容の調整について ・実習外国人の募集方法につ いて
9/8 16:00～17:30 (総会)	千駄ヶ谷日本 語教育研究所 センター校	伊東 祐郎 乾 美保子 内田美和子 梶村 勝利 川村 弘史 小山 紀子 新山 忠和 吉岡 正毅 吉川 正則	・第6回までの状況 報告 ・「おしゃべりで学ば う」の今後の展開 と実習の進め方 ・今後のスケジュー ル ・その他	・直近第6回までの概況報告。 ・「おしゃべりで学ぼう」の具体的 内容と進め方 ・外国人を対象とした実習の設定 日と具体的内容
9/29 10:00～12:00	千駄ヶ谷日本 語教育研究所 センター校	乾 美保子 小山 紀子 新山 忠和 吉岡 正毅 吉川 正則	・第9回までの経過 報告 ・実習内容の再検 討	・第7回から9回までの推移と受 講生の反応、参加状況につ いて ・実習の具体的内容についての 再検討
11/5 14:00～16:00	千駄ヶ谷日本 語教育研究所	乾 美保子 小山 紀子	・最終日の内容に ついて	・実習の実践状況について ・最終日の進め方について

	センター校	新山 忠和 吉岡 正毅 吉川 正則	・事業総括	・事業の目標達成状況について
12/21 16:00～17:30 (総会)	千駄ヶ谷日本 語教育研究所 センター校	石井恵理子 伊東 祐郎 乾 美保子 内田美和子 梶村 勝利 川村 弘史 小山 紀子 新山 忠和 吉岡 正毅 吉川 正則	・研修終了報告	・後半を中心に研修実施報告 ・受講生の反応…受講生アンケートと「ひとこと感想文」の内容について ・研修内容の評価 ・今後の課題

【写真】



3 研修講座の内容について

(1) 研修講座名 おしゃべり型日本語交流活動ボランティア育成講座

(2) 研修の目標

東村山市には多くの外国人が在住しており、既存の日本語教室では十分に対応できれておらず、新たなボランティアが早急に必要とされている。そのため、現在のボランティアが新たなボランティアを育成する体制作りが求められる。この体制を実現するには、日本語教室を運営する支援団体に自己育成能力がなくてはならない。

そこで、今まで当千駄ヶ谷日本語教育研究所グループが築いてきた実績やノウハウと、一昨年度の文化庁委嘱事業「対話を中心とした交流活動のカリキュラム」作成、及び昨年度の「日本語ボランティアグレードアップ講座」を通じて得られた地域の日本語教室のニーズに関する情報を活

かし、日本語支援を自律的に考え、実行できる人材の育成を目指す。

(3) 受講者の総数 36 人

(4) 開催時間数(回数) 40 時間 (15 回)

(5) 参加対象者の要件

以下のいずれかの要件を満たす者を対象とする。

- ・地域の支援者養成講座を受講し、交流活動に関わった経験がある人
- ・民間の日本語教師養成講座等を受講し、日本語教育に関わった経験がある人
- ・日本語教育能力検定試験に合格し、日本語教育に関わった経験がある人
- ・全養協日本語教師検定に合格し、日本語教育に関わった経験がある人
- ・大学等で日本語教育について修得し、日本語教育に関わった経験がある人
- ・上記と同等の能力・技能を有し、日本語教育や交流活動に関わった経験がある人

(6) 受講者の募集方法

東村山地球市民クラブ作成のチラシを配布して研修生を募集した。

(チラシ別添を参照のこと)

(7) 研修会場

東村山市 市民センター2階 第3会議室(7/18, 25, 8/1, 22, 29, 9/5, 12, 10/31)

東村山市 市役所北庁舎 第2会議室 (9/19, 26, 10/3, 10, 17, 24)

東村山市 公民館第3会議室 (11/7)

(8) 使用した教材・リソース

- ・平成19年度文化庁委嘱『対話を中心とした交流活動のカリキュラム』学校法人吉岡教育学園
- ・教授者が作成するレジュメ

(9) 講座内容

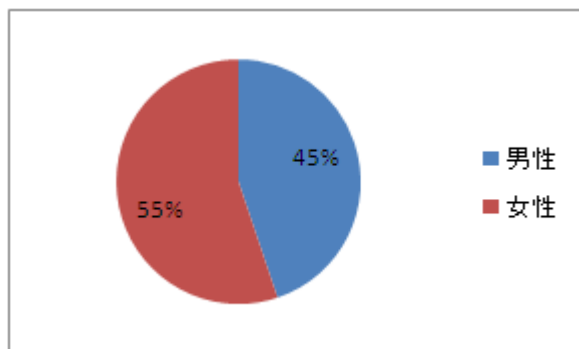
日時	講座名／学習内容	講師	受講者数
7/18 13:30～16:10	外国人とのコミュニケーション方法を身につけよう！	東京女子大学教授 石井恵理子	27 名
7/25 13:30～16:10	今、求められるボランティアとは？	東京外国語大学教授 伊東 祐郎	31 名
8/1 13:30～16:10	教えるポイントを整理しよう1 音声の指導	千駄ヶ谷日本語教育研究所 日本語部門部長講師 小山 紀子	30 名

8/22 13:30～16:10	教えるポイントを整理しよう2 会話の指導	千駄ヶ谷日本語教育研究所 養成部門部長講師 吉川 正則	32 名
8/29 13:30～16:10	おしゃべりで学ぼう1……おしゃべりで学ぶとは？	千駄ヶ谷日本語教育研究所 養成部門部長講師 吉川 正則	32 名
9/5 13:30～16:10	おしゃべりで学ぼう2……わかりやすく伝えるということ	千駄ヶ谷日本語教育研究所 日本語部門部長講師 小山 紀子	35 名
9/12 13:30～16:10	おしゃべりで学ぼう3……表現を豊かにする	千駄ヶ谷日本語教育研究所 日本語部門部長講師 小山 紀子	33 名
9/19 16:30～16:10	おしゃべりで学ぼう4……よりよいおしゃべりのための工夫	千駄ヶ谷日本語教育研究所 養成部門部長講師 吉川 正則	24 名
9/26 13:30～16:10	教材作成演習	学校法人吉岡教育学園 豊島日本語学院校長 新山 忠和	34 名
10/3 13:30～16:10	実習1・内省活動1……模擬実践(1)	千駄ヶ谷日本語教育研究所 養成部門主任講師 乾 美保子	32 名
10/10 13:30～16:10	実習2・内省活動2……模擬実践(2)	千駄ヶ谷日本語教育研究所 日本語部門部長講師 小山 紀子	29 名
10/17 13:30～16:10	おしゃべりで学ぼう5……おしゃべりを広げる	千駄ヶ谷日本語教育研究所 日本語部門部長講師 小山 紀子	31 名
10/24 13:30～16:10	実習3・内省活動3……学習者を対象とした実践(1)	千駄ヶ谷日本語教育研究所 養成部門部長講師 吉川 正則	32 名
10/31 13:30～16:10	実習4・内省活動4……学習者を対象とした実践(2)	千駄ヶ谷日本語教育研究所 日本語部門部長講師 小山 紀子	30 名
11/7 13:30～16:10	実習総括・修了式	千駄ヶ谷日本語教育研究所 日本語部門部長講師 小山 紀子 千駄ヶ谷日本語教育研究所 養成部門主任講師 乾 美保子	29 名

(10) 講座の評価

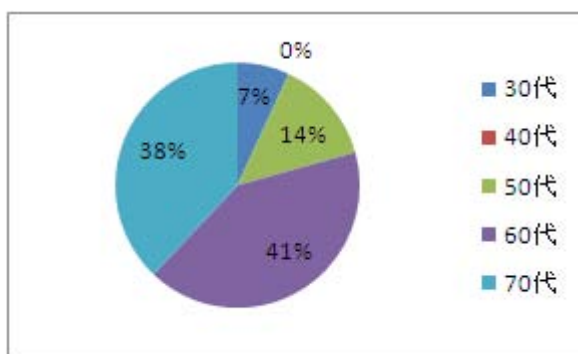
① 受講生に対するアンケート(回答数:29 名)

性別



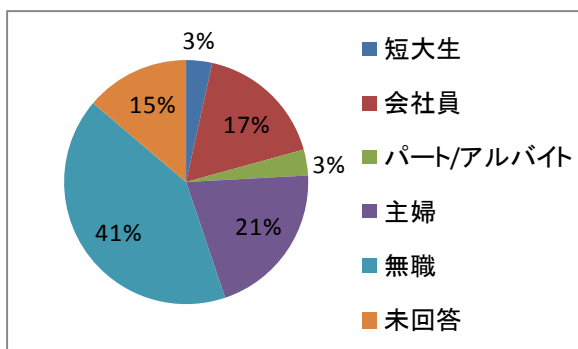
男性	13	45%
女性	16	55%

年齢



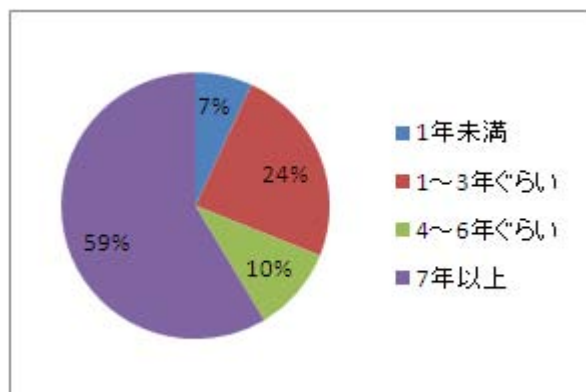
30代	2	7%
40代	0	0%
50代	4	14%
60代	12	41%
70代	11	38%

職業



短大生	1	3%
会社員	5	17%
パート/アルバイト	1	3%
主婦	6	21%
無職	12	41%
未回答	4	15%

地域在住外国人に対する支援・交流活動歴



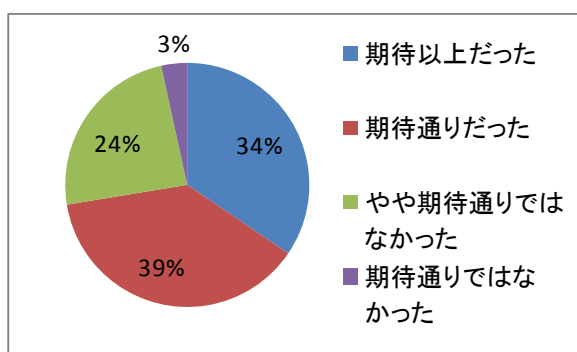
1年未満	2	7%
1～3年ぐらい	7	24%
4～6年ぐらい	3	10%
7年以上	17	59%

なぜこの研修を受けようと思ったのか。

- ・スキルアップのため。
- ・知識の幅を広げるため。
- ・日本語を教えるのに何の資格もなく、日本語教師になるための正式な勉強をしないまま、ボランティアとして長く日本語を教えてきたため、絶対に役に立つと思ったから。
- ・今まで自分がやってきたボランティア活動を振り返りたかったのと、「おしゃべりで学ぶ日本語」をプライベートで練習し始めていたところに、この講座を知り、受講したいと思ったから。
- ・日本語指導のスキルアップのため。
- ・普段のボランティア活動をレベルアップするため。
- ・久しく勉強をしていなかったもので、ちょうど良い機会だと思ったから。
- ・自分の向上と社会奉仕のため。
- ・指導力をつけるため。
- ・日本語・日本語教育に関する自己啓発と日本語教育に関する情報収集のため。
- ・自分自身の指導方法に問題があるか否かを認識するためと指導力の向上のため。
- ・今まで文法中心の勉強をしており、自分にとって別のアプローチで勉強したいと考えていたから。
- ・娘がアメリカに住んでおり、孫が生まれ言葉に興味を持ったから。その間、アメリカで英会話教室に何度も参加して、そこでボランティアで教えてくださる人々に感謝し、日本語で苦労している人を支援したいと思ったから。
- ・茶道教室をしていて、日本語教室で頼まれて茶道をしているうちに、スタッフとして望まれたから。
- ・中国語を5年間習っており、中国の方にお手伝いできればと思ったから。
- ・日本語の「より効果的な」教え方を習得できると期待したから。

- ・他の人の教育方法・内容を知るため。基礎的な日本語教育への指針を得るため。
- ・「おしゃべり」を通じての日本語指導法を学びたいと思ったから。
- ・文化庁支援事業であったことと、日本語学校（吉岡教育学園）の講義を一度受けてみたかったから。
- ・今までやってきたことの見直しをしたかったから。
- ・研修内容に興味があり、役立つと思ったから。
- ・従来はほとんど自己流で教えていた自分の指導力向上のため。
- ・文化庁の後援という格の高い教育機関だと感じたから。

研修で取り上げた内容について



期待以上だった	10	34%
期待通りだった	11	39%
やや期待通りではなかった	7	24%
期待通りではなかった	1	3%

今回の研修で最も印象に残ったこと

- ・伝えることは1/10。全部用意なくても相手に合わせ、工夫によって授業が楽しく長く続けられる。実習もあって良かった。
- ・文法積み上げだけでは、話せるようにならないこと。
- ・インフォメーションギャップを利用したおしゃべり。お喋りの中で語彙や言葉の使い方を身に付けていく方法。
- ・内省活動はやってみたいことだったが、そのような機会に恵まれてうれしく思っている。
- ・双方向のおしゃべり活動を通して日本語指導を行う点。
- ・やさしい日本語への言い換えがとっさにできるように毎日考えることが大切だということ。
- ・学習者に話させることの必要性、難しさ。
- ・日本人が学ぶ文法と外国人がわかりやすくなるよう工夫された文法の学び方。
- ・外国人に対する心構え。
- ・技術的なことも含めて、学習者の立場も考慮し、期待にこたえるように努力すること。

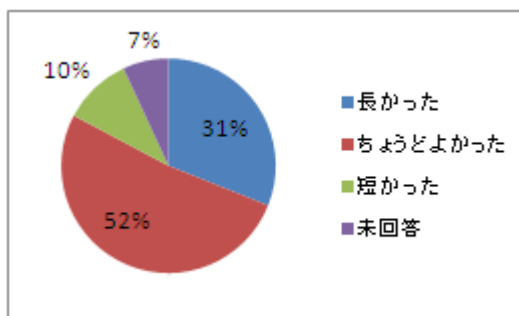
- ・無駄、無益に思われがちな「おしゃべり」も使い方・工夫次第で効果があるということ。「おしゃべり」の学習では、写真・図・実物などの教材がより力を発揮し、有効であること。
- ・学習者とのコミュニケーションをとりながら、学習者に楽しくお互いに学びあう。一方的な学習にならないようにする。
- ・日本語のあいまいな表現をおしゃべりを通して学ぶことはとてもよい方法である。
- ・情報差を利用して、文型練習することの面白さ。今までは相手に合わせて例文を自分で作っていたが、相手からの発話から文型練習に持っていく楽しさを覚えた。
- ・コミュニケーション能力を高める大切さ、おしゃべりをさせることの大切さ。
- ・おしゃべりを学習につなげることを通して学びあうことの重要性を感じた。
- ・教師側である私たちが一方的に話してしまうことなく、学習者の方とおしゃべりを双方向でやるということ。
- ・「みんなの日本語」の教科書だけでは物足りなく思っていたので、「おしゃべり教育法」は新鮮に感じた。さっそく、教科書と併用して実践している。
- ・聞き手（生徒側）が発声しやすい場、状況づくりについて。
- ・人に何かを伝えることがいかに難しいかということ。
- ・「おしゃべり」をする際に「言葉」と「ツール」を準備することの大切さを学んだ。
- ・文法ありきからはじまるのではなく、楽しくおしゃべりの中から学ぶこと。
- ・おしゃべりで日本語を教える必要性を学んだ。おしゃべりで学習者がスタッフに親近感を持ってきた。
- ・自分でやってきたこととの比較ができた。
- ・教えるということとは何か。双方向の会話の必要性について。
- ・未だ現在の自分にはすべて消化されずにあるが、今後は教育の場でこの講座で得たものを実際に役立てていきたい。
- ・日本語のテキストによって教えることと並行して、「おしゃべり」を通して楽しく生きたコミュニケーションのやり方を学ぶことができた。
- ・教科書に頼らず、相手のレベルに合わせて会話を中心に学習するノウハウを習得した。

今回の研修で学んだことをどう活かしたいか

- ・授業に参加してスキルアップしていきたい。
- ・日本語教室で、会話中心で、それぞれの外国人に合った交流をしていきたい。
- ・実際の日本語教室で、外国人に接するとき、受講した内容を常に頭に置きながら日本語を教えていきたい。
- ・我流の教え方だったため、今回の研修は大変新鮮で勉強になった。今後も様々な学習者との出会いがあると思うが、その中で是非活かしていきたい。

- ・言葉の通じない相手とのコミュニケーションにいいツールを使うよう心がける。
- ・毎回の授業で、自分なるべく話しすぎないようにしたい。
- ・実際に外国人に日本語を教えたい。
- ・忘れないようにいつも心がけていきたい。
- ・現在の日本語教室、将来の中国での生活に活かしたい。
- ・メインのテキスト学習に加え、視覚的教材（絵、写真、実物など）を使った「おしゃべり」を是非実践したい。
- ・研修で学んだことを十分取り入れ、自分自身のオリジナルなツールを用意して授業を進めたい。
- ・これからの日本語ボランティア活動に活かしていく。
- ・今まで教えてきた経験から言うと、今回の「おしゃべりで学ぼう」では積み上げて日本語を習得するのはかなり難しいと思う。今後、私は文型の中に今回学んだ要素を組み入れて、より楽しい授業をしていきたいと考えている。
- ・学習者の興味、関心があることを導き出して、たくさん話をさせて、聞いてあげるように。また、こちらも易しい言葉でゆっくり話をするよう心がけたい。
- ・教室で学習者とおしゃべりする機会を増やしていき、市民による日本語支援の場を生き生きした楽しいものにしていきたい。
- ・相手の望みにできるだけ添えるように会話のキャッチボールを心がけたい。
- ・学習者が何に興味があるのかをおしゃべりから引き出して楽しく会話をし、日本語支援に役立てていきたい。
- ・ツールを工夫して、もっと活用していきたい。
- ・自分自身で工夫し、学習者個々の個性・グレードに合わせてカリキュラムを構築していきたい。
- ・できる限りわかり易く、そして楽しく学んでもらえることをモットーにしたい。
- ・日常の日本語ボランティアに早速活かしていく。
- ・学習者に合わせて教案を作り、確認しながら進めたい。今までおしゃべり型の方法をとっていたので、自信を持って続けていきたい。
- ・日本語教室でテキストに偏らず、今後は「おしゃべり」（絵も含め）を活かしたい。
- ・系統的な学習ができたので、経験を先行させず初心に帰った活動をしたい。
- ・相手（学習者）の立場・気持ちを理解するように心がけること。
- ・私たちボランティアで携わっていることがいかに大切な、社会的に意義があることなのかを改めて理解できた。こんなに大切な、かつ世の中に役立っているとは。誇りに思った。
- ・最初の10～20分くらいは「おしゃべり」手法で学習者に接してみる。
- ・肩の力を抜いてコミュニケーションを大切に人と人との信頼を求めていきたい。

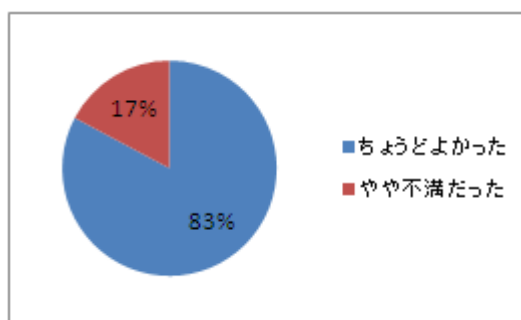
研修全体の時間の長さ（全 15 回）について



長かった	9	31%
ちょうどよかった	15	52%
短かった	3	10%
未回答	2	7%

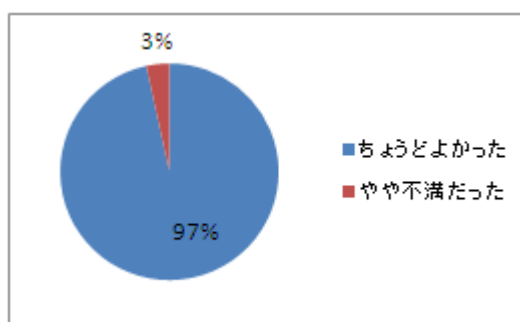
研修の曜日設定（土曜日）、時間設定（13：30～16：10）について

曜日



ちょうどよかった	24	83%
やや不満だった	5	17%

時間



ちょうどよかった	28	97%
やや不満だった	1	3%

今後、どのようなことを学んでみたいか。

- ・西洋人の教え方（漢字、文字、会話）、能力試験、ヒアリング、子どもの対応、東洋・西洋人の特徴。
- ・シャドーイングやディクテーションなどの学習方法のどれが一番脳に効果的に言葉を覚えられるのか、認知心理学や、行動主義心理学などを学びたい。
- ・上級の学習者からよく聞かれる、文法上・語彙上の質問に対するわかりやすい説

明。たとえば、「は」と「が」の違いや、微妙な言い回しなど。

- ・ 今回の研修で学んだような「指導法」についても更に学んでみたい。
- ・ 具体的な教授法について。
- ・ 一定のレベル以上の学習者とのフリー会話の話題作りにいつも苦労している。話題の選び方について。
- ・ 実習を通じた学習。今回は13,14回中2回だったが、もう1回やりたかった。
- ・ 現職のベテランの先生による日本語指導教室の見学と先生との懇談。
- ・ 敬語法（現在、特に誤用されている場合も多い感があるので。）
- ・ 学習者が日本語教室に臨んでいることを知りたい。
- ・ 文法的なこと（以前学んだこと）を思い出しながら復習していきたい。
- ・ 今回の講座の中に、もう少し文法とのかかわりが含まれていることを期待していたが、その点が少し残念だった。ボランティアの多くの方が、日本語を教える勉強を特にされていないので、その点を踏まえた講座であって欲しかった。
- ・ 自分が担当している学習者は9月に1級検定試験に合格した。しかし、リスニングは半分しか取れていないので、よりよく話す力、聴く力を養うため、より多くの幅広い言葉を勉強し、伝えていきたい。外国の文化、比較文化を学んでともに話をしていきたい。
- ・ 市民が気軽におしゃべり等を通して日本語学習支援できるノウハウをもっと具体的に知識を学び、練習できたらいいと思う。ボランティアは素人なのに日本語教師と同等の指導力を求められて苦しんでいることがよくあるから。
- ・ 現場で活かせることを学びたい。目標を持たせて教えるための知恵、日本語が全くできない人への教え方。
- ・ 文法について学びたい。
- ・ いろいろなレベルの外国人に対して、相手のレベルやニーズに応じて、楽しみながら日本語を習得してもらうために、効率的な教え方を工夫していきたい。
- ・ 授業風景を参観したい。生徒がどのように習熟していくかを見届けたい。
- ・ 日々変化する日本の言葉を正しく使うための勉強をしてみたい。
- ・ 日本語を全く話せない外国人への日本語教授法をもっと学びたい。
- ・ 今回の研修をもう少し深めたい。
- ・ 体系的に日本語の教え方を学んだ。「おしゃべり」以外の方法での教え方を学びたい。
- ・ 日本語能力検定試験についての実態を知りたい。
- ・ 音声の指導法についてもっと学びたい。
- ・ 他の地域における日本語教室（ボランティア、NPO）の実態を知りたい。地方自治体が行政の仕事として日本語教室を具体的にバックアップすべきと考える。
- ・ 日本語が全くわからない外国人に対して、最低これだけは教えるべきとの方向付

けを学びたい。

② 実施主体からの研修内容結果評価

今回の事業は、一昨年度当実施主体が作成した『対話を中心とした交流カリキュラム』（平成19年度文化庁委嘱）を使用し、昨年度埼玉県久喜市において実施した「ボランティアを対象とした実践的長期研修」の経験も踏まえて行ったものである。

今回の長期研修も、その目的は、このカリキュラムを運用できる人材を育成することにあった。それは、これまでと同様、生活者としての外国人に対する日本語支援において、中心となるべき支援内容は文型（文法）ではなく、おしゃべりから得られる情報や人間関係であるという考え方に基づいている。

地域の日本語教室は、その地域に生活者として住む外国人と地域住民との交流の場であり、その交流を通して互いに良好な人間関係を築き、共に住みやすい地域社会を作り上げるきっかけとなる場である。したがって、地域の日本語教室の日本語支援を考えるときに、いかに交流を促進させるかという点から支援内容を組み立てていく必要がある。しかしながら、地域の日本語教育では、文型（文法）を中心とした教科書を主教材として用いているところもあり、日本語支援者の中には文型（文法）を教えることが日本語の支援だと考えている人も多い。そこで、今回の研修でも、文型を中心に教えていく方法の技術や能力を高めるのではなく、交流の促進を目的とした「おしゃべりで学ぶ」という新たな支援方法を紹介し、その実践能力の育成を目指した。

日本語支援をおしゃべり中心にしても、話すためにはどうしても言語表現についての知識が必要になってくる。ある話題で話す場合、その話題を語るために必要な表現、あるいはその話題を語るときに知っていると便利な表現がある。それらを必要に応じて、外国人の方々に伝達し身につけてもらえば、ある話題についてより深く詳しく語ることができるようになる。そうならば、外国人の方々は、さらに多くの必要情報を得たり、その話題を通して支援者とより深く交流をしたりすることができる。そこで、研修前半の内容は、「教えるポイントを整理しよう」と題して、音声と会話の指導についての要諦を押さえた上で、「おしゃべりで学ぼう」というタイトルで、『対話を中心とした交流カリキュラム』（平成19年度文化庁委嘱）をテキストとし研修を行った。おしゃべりを中心とした日本語支援の方法は、ボランティア経験の長短にかかわらず受講者にとっては新たな日本語の支援方法であった。

研修前半の評価であるが、ある話題でおしゃべりをするという活動そのものは、受講者にとって日常でも普通に行っていることなので、おしゃべりを中心とした新たな日本語支援の方法は、受講者に抵抗無く受け入れられた。しかしながら、「おしゃべりで学ぼう」の最初の段階は、支援者がしゃべることに夢中になり、おしゃべりの相手の日本語のレベルを考えずに難しいことばを使ってしまうなど、相手への配慮に欠けるおしゃべりが目立った。また、言語表現の伝達については、おしゃべり活動の中に取り入れられることが少なかった。しかし、模擬実習の

フィードバックにおいて自分のおしゃべりを意識化し、さらに、コミュニケーションについての知識が深まるにつれて、徐々にではあるが、相手に配慮したおしゃべりができるようになってきた。そして、研修で学んだことも盛り込んでいこうという努力も窺えるようになってきた。

最後に本研修の全体的な評価について述べる。本研修の目的は、交流の促進を目的とした「おしゃべりで学ぶ」という新たな支援方法を紹介し、その実践能力の育成を目指すことで、『対話を中心とした交流カリキュラム』（平成19年度文化庁委嘱）を運用できる人材を育成することにあった。そして、昨年度の埼玉県久喜市における研修と同様、本研修の最後には「徐々にではあるが相手に配慮したおしゃべりができる」段階に至った。カリキュラム運用能力の面では「徐々にではあるが」と条件はついているものの、「できる」段階に至ったことは本研修の成果だと言える。運用面では以上のような評価になるが、日本語支援者としての意識についてはかなりの変化が見られた。「おしゃべり」を「学び」に変えていくことの意義についての再認識と、文法項目を「教える」ではなく、相手が必要としていることを効果的に補っていくあり方についての認識が受講者の間に芽生えたようである。

以上のような成果があっただけに、研修に参加した受講者には、本研修で学んだことを是非地域の日本語支援の発展に役立てていただきたいと強く望んでいる。

③ 実施主体からの外国人支援体制等今後の計画

現地で日本語支援活動に携わっている運営委員を通して、その後の実践状況をリサーチし、必要に応じて適宜フォローアップを試みていきたい。

（11）事業の成果

① 他事業との連携

- ・一昨年度、当事業主体が文化庁より委嘱された『対話を中心とした交流活動のカリキュラム』を本事業に活用した。
- ・当学校法人の関連機関である千駄ヶ谷日本語教育研究所で、「「おしゃべり」で相互理解 ― 今、求められる日本語支援者とは― 対話を中心とした交流活動のカリキュラム（文化庁日本語教育事業）報告」と題する公開講座を開催し（2009年10月3日）、運営委員長伊東祐郎氏の基調講演の他、委員によるカリキュラムと実践例の紹介も行った。ボランティア関係者等およそ170名が参加した。
- ・今年度の事業については、上記と同様千駄ヶ谷日本語教育研究所第55回公開講座において、本研修参加者の日本語教育支援状況やインタビューを収録したビデオも交えた報告を行う予定である。

② 研修後の人材活用

本事業の受講者は、今後も東村山市を中心とする地域で外国人への日本語支援に携わる

ことになっている。

(12) 今後の課題

本事業の受講者には地域における日本語支援の経験が比較的浅いボランティアも含まれていたが、経験の浅いボランティアも含めて、本事業主体が、地域の日本語教室に対して今後も継続して支援していくことが今後の課題である。

以 上